

No. 2
(31ページ以降)

令和7年度文部科学省事業
「発達障害のある児童生徒等に対する支援事業」

令和7年度 通級による指導 自立活動事例集



香川県教育委員会
特別支援教育課

小学校	読む・書く・計算全般において遅れを取り戻し、学習に意欲的に取り組むための指導		
<p>★対象児童（中学年） 対象障害種（学習障害【読むこと・書くこと・計算すること】の傾向）</p> <p>★対象児童の特徴 読む・書く・計算全般において遅れがあり、学習に意欲的に取り組むことが困難な状態である。</p> <p>★目標 勉強をすればできるという自信をもたせ、学習への意欲を高める。 【自立活動2心理的な安定ー（1）（3）】</p> <p>★有効だった教具・教材等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ まず、九九のつまずきを解消しようと考えた。本年度から通級を開始した児童なので、まずは、実態を把握し見て唱える、自力で唱える、間違えやすい九九前後だけ唱える、書いて覚えるなど、手を変え品を変えて練習に取り組んでいる。また、時間のある時は、計算してみたいと思うようなドリルを使用している。 ○ 読みに関しては、国語の教科書教材を音読する際、一文交互読みや段落の交互読みをしている。短く読むことで読みのハードルを下げ、意味の確認や簡単な言葉への変換もしやすい。また、5分で完結のドリルで、その子の実力に合った全学年、若しくは2学年遡ったドリルを使用して達成感や自信がもてるようにしている。 			
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 20%;">小学校</td> <td>自分の感情や経験を的確に話したり、書いたりするための指導</td> </tr> </table>		小学校	自分の感情や経験を的確に話したり、書いたりするための指導
小学校	自分の感情や経験を的確に話したり、書いたりするための指導		
<p>★対象児童（中学年） 対象障害種（学習障害【話すこと・書くこと】の傾向）</p> <p>★対象児童の特徴 運動が苦手で、指先も器用な方ではない。経験したことや思いを伝えたり、書いたりすることに抵抗がある。</p> <p>★目標 自分の考えを書いたり、話したりすることへの抵抗感を減らす。</p> <p>★有効だった教具・教材等</p> <ul style="list-style-type: none"> ○作文ドリル「空想作文ドリル」(Gakken) <p>イラストから想像を自由にふくらませて、文章を書くドリルを使っている。楽しい設定やイラストがあって、文を書くのに抵抗がある児童もつい書こうという気になるドリルである。このドリルを使って、まず自由に話しをさせ、足りない言葉を増やしたり訂正したりしてから書かせている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○お話タイム 毎時間、5分程度の時間を使って昨日のことや、休日のことについて話したり、尋ねたりしている。会話の中で抜けていた主語や場所、時間や様子、気持ちについて聞き返すことを心掛けている。 <p>【児童の様子、成果】</p> <p>★ドリル類やペダロを購入し、学習後のお楽しみの時間に使用している。ペダロはなかなか難しいが、全身のバランス運動には有効である。また、全学年のドリルを数種類購入させてもらったので、有効に活用していきたい。</p>			



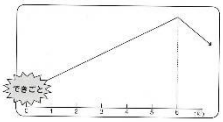

「川島隆太教授の脳トレ日めくり 366日」
(川島隆太、Gakken)



「朝の5分間ドリル」
(Gakken)



小学校	他者とのかわりが苦手な児童への指導
<p>★対象児童（1,2,3,4）年 対象障害種（発達性読み書き障害）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を正確に読んだり書いたりすることが苦手である。 集団の中で、教員の話の内容を正確に聞き取れず、作業が滞りがちになることがある。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 複数の情報から、共通点や相違点を見つける視覚認知能力の向上を図る。 <p>【自立活動6コミュニケーションー（2）】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「くるくる星座」山札と同じ星座の場札を素早く見付けるゲーム（COGET） 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>【学習内容と指導方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 山札をシャッフルして、裏向きで重ねたまま机の中心に置く。 場札を表向きで重ならないように、机にランダムに並べる。 じゃんけんで勝った児童は、山札を1枚めくり隣に表向きにして置く。 山札と同じ星座の場札（様々な方向を向いている）を見つけた児童は、素早く手で押さえる。 1番最初に押さえた児童が、山札と場札の2枚を獲得し、次の山札をめくる。 場札が残り2枚になった時、どちらかの場札を最初に押さえた児童は、山札と場札を2枚ずつ計4枚獲得する。この時点で終了となる。 <p>【ルールの変更】</p> <p>「くるくる星座」のゲームでは、児童にとって図形を回転する念頭操作は予想以上に難しいことが分かった。また、獲得した場札、山札の枚数で勝敗が決まることから、負けた児童の意欲低下や関係性への好ましくない影響が見られた。そうした状況を改善していくため、以下のようにルールを変更した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 場札を見つけるのが難しい児童の場合、山札を手に持ち、回転させながら探してもよいこととする。 2人の児童で行う場合、場札を15枚ずつ配布して開始し、2人の場札がなくなった時点で終了とする。その際、ストップウォッチを用いてタイムの計測、記録を継続することで、勝敗ではなく、タイムを短縮しようという意識を持って、取り組めるようにする。 1人の児童で行う場合、場札の枚数を10枚程度に制限したり、制限時間を設け、ストップウォッチで残り時間を示したりする。また、児童に自分の得意な場札を選んだり、苦手な場札を取り除いたりする。 短時間で行う場合、活動可能な時間に合わせて場札の枚数や時間を制限する。ストップウォッチで残り時間を示すことで、時間を意識して活動できる。 <div data-bbox="762 1666 903 1756" data-label="Image"> </div> <div data-bbox="1007 1487 1385 1767" data-label="Image"> </div> <p>【児童の様子、成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ ルールを変更することで、児童は獲得した場札の枚数を競い合うのではなく、制限時間内に場札を取ろう、自分の得意な場札を増やそうという意識に変わった。 ★ ゲームを繰り返すことで、児童は山札を手を持たずに場札を探せるようになった。図形を回転する念頭操作に慣れることで、どの児童もタイムが短縮した。 	

小学校	自分の怒りを理解し、コントロールするための指導
<p>★対象児童 (5)年 対象障害種 (ASD ADHD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・知的能力は高いが、怒りに達するスピードが速く感情のコントロールが苦手なので友人とよくトラブルになる。 ・絵を描くことが好き。 ・白黒はっきりしないと気が済まないタイプであるが、最近はその中間もあることを理解しようとしてきた。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒りの気持ちをコントロールし、自分なりの発散方法を見つける。 <p>【自立活動2心理的な安定一(1)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「イラスト版子どものアンガーマネジメント 怒りをコントロールする43のスキル」(合同出版) ・「みんなの怒りスイッチをさがせ!ゲームで身につくアンガーマネジメント」(合同出版) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>1 【怒り】について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怒りは大抵6秒たつとおさまってくる(6秒ルール)について知る。 線グラフを参考に見せると、イメージしやすくなり理解力が上がった。  <p>2 自分の怒りのレベルについて知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『怒りの温度計』を用いて、自分の怒り具合を数値化する ⇒客観的に自分の怒りに向き合うことができる。 ・場面カードを用いて、その状況で自分がどれくらいの怒り度になりそうかをあらかじめ予想しておく。 ⇒怒り温度が3~4の時に対処するように意識づけする。  <p>3 自分に合った怒りの発散方法を見つける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの候補の中から自分が良さそうと思ったものを日常で試してみるように助言する。その際、深呼吸のような「いつでも使える方法」、「学校で使える方法」、「家で使える方法」になど場面に分けて考えおくことで、いつでも対応できるように備えておく、 ・自分の『すき』を発散方法に組み込む。 <ul style="list-style-type: none"> ① Mrs. GREEN APPLE が好き⇒6秒ルールに当てはまるように、 6秒間好きな歌のフレーズを心の中で歌う。 ② 絵を描くことが好き⇒無心になってノートに絵を描く! <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 怒りを数値化することで、あとから話を聞く際に、自分の怒りについて考えたり、振り返ったりする手段として役立っていた。 ★ 自分の好きなことを発散方法に組み込むことで、怒りのコントロールをしようと前向きに実践しようとする姿勢が見られた。 	

小学校	自己理解を深め、自ら適切な行動を選択し調整する力を高めるための指導
-----	-----------------------------------

★対象児童 (5)年 対象障害種 (ADHD)

★対象児童の特徴

- ・内気で言葉は少ないが、作文や絵による表現が得意で集中して取り組むことができる。
- ・提出物を出す気持ちはあるものの、毎日の休み時間を前日の宿題に費やしている。

★目標

- ・自らの特性理解を通して、課題に優先順位をつけて取り組もうとすることができる。
- ・生活時間の記録をもとに、自分に合った時間の使い方を考え実行することができる。

【自立活動3人間関係の形成—(3)】

★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等

- ・自作ワークシート(タブレット端末:ロイロノート)
- ・「時間管理大全」(中島美鈴 2024年 株式会社主婦の友社)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①自己理解と課題把握

○自己の特性に気づき、取り組みたい内容について考える。

- (1) ロイロノートで特性カード23枚(きく、がまんする等)を「得意・苦手」に分類する。
- (2) さらに「できている(満足)・うまくなりたい(課題)」に分類。
- (3) 通級で活動したい順にカードを選び5つ以内で○付け。



自己分析図(本児)/個別のファイルに綴じて指導や課題把握確認の参考資料として活用している。

②時間の使い方

○日頃の時間の使い方をもとに、家庭での時間の使い方について考え、より快適な生活ができるようになることを目指す。

- (1) 朝、登校までの時間をどのように使いたいか考えてみる。
- (2) いつもの時間の使い方をロイロノートに記録し、振り返る。
- (3) (2)をもとに、(1)が実現できそうな時間配分を考える。
- (4) (3)を実行・検証し、実現可能なよりよい時間配分とする。



(2)ワークシート(本児)/予想以上に登校に時間がかかっていることに、自分で気が付いた。

[児童の様子、成果]

- ★ 意思表示を苦手とする本児であるが、タブレット端末の操作に意欲的に取り組み、自己分析図を手際よく完成させた。また、得意な絵と作文による空想絵日記を書く活動に熱中し、制作意図などについて会話がはずむようになってきた。自立活動の内容と本人のニーズとのズレが認められたことから、指導の内容や順番を修正する機会とすることができた。
- ★ 活動で目標とした時刻に登校できた日は、朝の連絡帳をゆっくり書き、宿題を提出したとのことであった。困難さを克服するために自ら工夫すると、生活の満足度を上げることができるという経験を増やせるように、これからも一緒に考えていきたい。

小学校	整理・整とんに課題のある児童への指導
<p>★対象児童 (5)年 対象障害種(広汎性発達障害)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・片付けが苦手で、机の上がいっぱいになっているが、片付けの仕方が分かると、自分で思考しながら素早く行うことができる。 ・文を書くときに、枠内にまっすぐ書くことが苦手であるが、音読は上手にできる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で片付けをする習慣を身につける。 【自立活動1 健康の保持一(4)】 <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「1日5分! 眼と体を楽しく動かす ビジョントレーニング」(北出勝也、ナツメ社) ・5年家庭科教科書(整理・整頓の仕方) ・コグトレオンライン ・「通級指導教室 発達障害のある子への「自立活動」指導アイデア110」(喜多好一、明治図書) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>ビジョントレーニングやコグトレオンライン(視る力・集中力を高める)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・視空間認知を高めるためのトレーニングをする。(点つなぎや間違い探しなど) <p>お道具箱の片付け</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自分の身の回りの散らかっている場面の写真を見て、片付けの必要性に気づくことができるようにする。 (2) 探し物ゲームをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・片付け前と後で探し物をしてみて、片付けた後の方が物の場所が分かりやすいことに気づくようにする。 (3) 片付けの仕方の動画を見てから、自分のお道具箱の片付けをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・整理・整とんの3つのポイント(分ける・決める・もどす)を確かめてから、片付けをする。 <ol style="list-style-type: none"> ① 要るものと要らないものを分ける。 ② 物の場所を決める。 ③ 使ったらもとの場所にもどす。を意識して片付けができるようにする。 (4) きれいな状態のお道具箱の写真をタブレットで撮る。 <ul style="list-style-type: none"> ・いつも見えるところに、きれいな状態のお道具箱の写真を貼っておき、自分で、もとのきれいな状態にもどせるようにする。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き箱などで、仕切りを作って、お道具箱の中身を区切れるようにする。 ・何がどこにあるか分かるように、マスキングテープでラベルを作って貼る練習をする。 ・定期的に片付けが出来ているかチェックを行う。 <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 整理・整とんの3つのポイントを確認した後、自ら進んでお道具箱の整理・整とんをすることができた。 ★ マスキングテープや空き箱など身の回りの物を使って、片付けの仕方を知ることで、自分で実践することができるようになった。 	



小学校	自己の課題を認識し、集中力を身につけるための指導
-----	--------------------------

- ★対象児童（5）年 対象障害種（ADHD）
- ★対象児童の特徴
 - ・集中が続かず、授業中も文房具で手遊びをして話を聞いていない。
 - ・片付けができず、机の中や上が乱雑でも気にしない。そのため、忘れ物が多い。
- ★目標
 - ・話を集中して聞く態度を身につけ、忘れ物をしないための工夫をしたり、整理整頓を心がけたりする。
- 【自立活動1 健康の保持―（4）、2 心理的な安定―（3）】
- ★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等
 - ・ワークシートで進める特別支援のSST～机の中の整理整とん～（Gakken）
 - ・「聞き取りワークシート～やりながら聞こう、途中でもやめよう～」
（LD発達障害相談センターかながわ、かもがわ出版）
 - ・「コグトレ～集中力を上げよう～」（宮口幸治、東洋館出版社）

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

① 自分の課題を認識する

- 授業中の態度や生活をチェック項目で振り返る。
 - ・「授業中の態度」→文房具を必要ときだけ出そう。
 - ・「今、学校ではどんな感じ」→忘れ物をしないように
- 実際に教室で机の中や整理ボックスを整とんする。
 - ・「片付けると、どんないいことがある？」
→物の指定席をつくろう
- 自分の姿を客観視する。
 - ・授業中にしていたこと（手遊び）を教師がマネしてやって見せて、「どう感じたか」、「どうすればよいか」考える。→授業をしている先生は、嫌な気持ちだろうな。



② 集中力を付けるトレーニング

- 集中して「聞く」「見る」「読む」「考える」の練習をする。
 - ・「コグトレ」…「最初とポン」「記号さがし」
 - ・「聞き取りワークシート」…「心の中をあててみよう」「やりながら聞こう」
 - ・「片付け、よーいドン！」…実際に積み木や散らかした机の上を片付け、タイマーで計る。



③ 担任、家庭との連携

- ・通級指導後、様子を伝え、教室でできること、家庭でできることを話し合った。例えば、連絡帳を書くときに追い付かず、連絡帳を書き忘れることが多かったので、連絡帳のホワイトボードをいつでも見える前の黒板の横に置いてもらったり、忘れないように付箋紙を活用したりした。

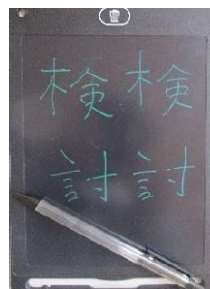


[児童の様子、成果]

- ★ 自分の姿を客観視することで、自分の課題に気づき、忘れ物を確認したり、連絡帳を書き忘れたりしないように意識することができるようになってきた。
- ★ 集中するとすばやく片付けができることを体感し、片付けのよさに気付くことができた。タイマーを意識したり、見通しをもったりすると速く片付けができたことを実感し、片付けの意識が高まってきた。

小学校	感情の理解とコントロールのための指導
<p>★対象児童 (5)年 対象障害種(自閉症・情緒障害)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力が高く、本などによる知識も豊富であるが、気持ちを話すことは苦手である。穏やかな性格だが、友達とトラブルになると、カッとなって暴力的になることがある。 ・情緒が不安定になると、感覚過敏が強まり、学習や活動に集中できなくなる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の感情に気付き、言葉に表すことができる。 ・自分に合った気持ちのコントロール方法を身に付けることができる。 <p>【自立活動3人間関係の形成一(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SSTカード教材 気持ちチップ(かもがわ出版) ・「カンジョウレンジャー&カイケツロボ」(エンパワメント研究所) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>【学習内容と指導方法】</p> <p>① 感情理解と言語化</p> <p>○日常生活にありがちな状況について、自分はどう感じるかを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 自己の感情理解・・・お題カードの状況を顔の表情カード(気持ちチップ)で表す。 (2) 感情の強度理解・・・その感じ方の程度はどのくらいかをチップの枚数で表す。 (3) 感情の表出・・・その気持ちを言葉で表してみる。 (4) 他者の感情の理解・・・教師の気持ちを聞き、人による感じ方の違いを知る。 <p>② 気持ちのコントロール方法について</p> <p>○マイナスの出来事の捉え方を、プラスの表現に変えて、言葉で言ってみる。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) カンジョウマスター・・・自分の気持ちを知り、喜びを見付ける。 (2) マイナスモンスター・・・イライラや不安な感情について知る(カイジンイライラ、不安大王)。 (3) カンジョウレンジャー・・・自分だったらどう切り替えるか考える。 (うんどうマン、リラックスマン、おはなしマン、かんがえマン、いろいろマン) (4) プラスマン(プラスに変える)・自分なりの対処方法について考える。 <p>【児童の様子、成果】</p> <p>★ 自分の感情(喜び、悲しみ、怒り、イライラなど)に気付き、短い言葉に置き換えることができた。気持ちを尋ねると、言いづらく、イエス、ノーの返事になってしまうことがあるが、SSTカード教材で顔の表情チップを用いると、躊躇なく手を伸ばし、楽しそうに並べることができた。「運動会が延期になり、急に時間割変更があった」というお題に対し、10枚以上のここに顔を並べて、驚くような反応が見られるなど、感情の強度を表す活動は、「それほど困っていたのか…」と、3年時、運動会練習に泣いて参加したから靴も気持ち悪いから履きたくない、と踵を踏んでいた本児の状態像につながった。</p> <p>★ カンジョウレンジャーでは、たいへん素直な前向きな気持ちで学習に取り組むことができた。5年生ともなると、単純なものではなく、プラスの考えでも解消しきれない複雑な感情もあると思うが、その感情に気付いていることを評価してフィードバックしながら、さらにどうするかを一緒に考えていき、いざというときの備えにしたい。</p>	

小学校	書くことに困難さがある児童のための指導
<p>★対象児童 (6)年 対象障害種 (LD、ADHD)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字を覚えて書くことは苦手であるが、漢字の読みに対しては自信があり、新聞や雑誌などは、つまらず読むことができる。 漢字練習では、集中力が持続せず、眠気を感じる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分に合った漢字練習方法を見つけ、苦手意識を軽減することで、楽しく漢字練習に取り組むことができる。 <p>【自立活動3心理的な安定一(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「まんがとゴロで楽しく覚えて忘れない 小学 漢字 1026」(卯月啓子、西東社) メモパッド 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① 漢字を覚えることに対する困難さを考える。</p> <p>○今の自分を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> 「漢字の読みには自信があるよ。小学校で習わないような漢字でも読めるよ。」「漢字を覚えるのは苦手でテストでもできないな。」(テストの読み仮名問題は全問正解。) 「漢字練習を始めると眠たくなる。面倒だなあと思う。」(あくびが止まらない。) 「漢字練習ノートを見ると、マスの中に文字は入っているけれど、よく見ると正しい漢字ではないな。」(「行人偏」が「人偏」になっていたり、横画が一本足りなかったりする) 「同じ漢字を連続して何回も書くと、正確に書けていないな。」 ⇒漢字をパーツごとによく見て練習する。同じ漢字は、連続3回までにする。少しでも楽しく練習したい。 <p>②漢字練習</p> <p>○「小学 漢字 1026」を使って練習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> まんがと語呂合わせを見て漢字をパーツごとに覚える。 読み仮名のついた熟語を2回ずつ書いて練習する。 練習時間は15分間とする。 メモパッドに書いて練習する。 <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★語呂合わせを楽しみながら覚えていく中で、漢字全体を見るのではなく、パーツを意識するようになってきた。 ★メモパッドを利用すると、ノートに書いて練習するよりも、手に負担なく書くことができるので、集中して練習することができた。 ★「読み仮名のついた漢字を手本にして練習する方が覚えやすい。」「好きな漫画の台詞の漢字は覚えやすい。」など自分が見つけた漢字練習方法を、うれしそうに伝える姿が見られた。 ★語呂合わせを楽しむ中で、自分流の語呂の合わせを作るなど、漢字練習に対する苦手意識が少しずつ軽減されてきた。 	



小学校	苦手なことになかなか取り組めない児童への指導
<p>★対象児童 (6)年 対象障害種 (広汎性発達障害)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「無理だ。」と思い込むとそこで思考が停止してしまい、やる気を失う。 ・相手の言葉通りに受け取ってしまい、トラブルになる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習で分からないところを自分から質問することができる。 ・状況に応じて相手の気持ちを想像することができる。 <p>【自立活動6コミュニケーションー (5)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <p>「SST ワークシート」(LD 発達相談センターかながわ、かもがわ出版)、SST ワークシート (自作)</p>	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>学習で分からないところを自分から質問することができる。</p> <p>① 自分から質問することができる環境をととのえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通級の時間に、学習類に取り組む時間を設定する。 ・「一人でどんどんコース」「一緒に考えるコース」のどちらかを選んで取り組むようにする。(「一人でどんどんコース」を選んでいても、分からないときは質問できると伝えておく。) ・自分から適切に質問できたときには称賛する。 <p>② 自分に合った学び方の選択</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字ドリルノートで練習する量を相談する。(必要な時は、書く量を精選したワークシートを貼りこむ。) ・通級担当から児童の考えを学級担任に伝え、児童の負担を軽減する。 <p>状況に合った行動ができるようにする。</p> <p>① イラストを見て、言葉の裏の気持ちを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活で起こりがちな出来事を取り上げる。 ・イラストでは普通の表情をしているが、心の中の表情を「困った顔」「怒った顔」にしておくことで、表面的には肯定的な反応であっても心の中ではそうではないこともあると気付くことができるようにする。 <p>② 状況をつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・状況について問いかけ、児童に状況を言語化することを促す。 <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつでも質問できるという安心感から、まずは自分でやってみようという気持ちになった。 ・宿題に進んで取り組めるようになった。 ・実際の言葉と気持ちが必ずしも同じでないことがあると気付くことができた。 	



小学校	自分の気持ちを上手く表現できるようになるための指導
<p>★対象児童 (6)年 対象障害種 (学習障害)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達を笑わせることが好きで、前向きな言葉かけをすることができる。 ・読み書きが苦手で、特に漢字を書いて覚えることに苦手意識がある。 ・感じたことや思ったことをすぐに口に出して言う。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字を少しでも覚えられるようにする。 ・いろいろな言葉を言い換える練習をしてリフレーミングをし、ものの見方や捉え方を変えることができるようになる。 <p>【自立活動6 コミュニケーションー (1)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習プリント (自作) ・漢字辞典 ・リフレーミングカード (自作) ・ホワイトボード 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① 漢字学習</p> <p>○教科書の音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末のICT機器の音声教材を活用し、読み上げて分かりやすく説明する。教科書の文章中で読めなかった漢字には読み仮名を書き、繰り返し読む練習をする。 <p>○練習プリント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4年生までの既習の漢字で書けなかったものを1枚のプリントに書いて集めていき、通級時間に少しずつ練習する。 <p>② リフレーミング学習</p> <p>(1) 言葉言い換えゲームをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「言葉言い換えゲーム」をタブレット端末に提示することで、児童の意欲を高める。ロイロノートにヒントカードを用意し、言葉の言い換えの練習ができるようにする。 ・試行錯誤しながら言葉の言い換えに挑戦ができるよう、タブレット端末のロイロノートを利用して自力解決の時間を十分にとり、自分の考えを自由に好きな数だけ記入できるようにする。 <p>(2) 自分の短所をリフレーミングする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達の言葉を聞きながら実際にリフレーミングを試みる活動を取り入れることで、今まで気が付いていなかった自分のよさに気が付くことができるようにする。 ・友達の考えを聞いて自分の新たなよさに気が付いたことを振り返り、友達に伝える場を設定することで、学び合うよさを実感できるようにする。また、リフレーミングすると見方を変えることができるというよさを実感できるようにする。 <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 少しずつ読み書きができる漢字を増やすことができた。4年生までの読みは定着してきているので、書きも少しずつ増やして定着していけるようにする。 ★ 短所をリフレーミングし合うことを通して、リフレーミングのよさを理解し、自分や友だちを肯定的に捉えることができた。 	

小学校	物事を柔軟にとらえ、言動に自信がもてるようになるための指導
<p>★対象児童（6年） 対象障害種（適応障害）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の殻に閉じこもり、他の児童の言動を気にしたり、他の児童へのかかわり方がわからなかったりして、集団の中で孤立しがちである。 ・個別に学習すると素直に応答し、算数等の教科の学習に対して、時間はかかるが理解しようと前向きに取り組める。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の人に自分の気持ちを伝えることができる。 ・級友とともに過ごす時間と場を増やす。【自立活動6コミュニケーションー（5）】 <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ソーシャルスキルトレーニングカード 状況の認知絵カード」（エスコアール） ・「発達障害のある子への「自立活動」指導アイデア 111 part2」（喜多好一、明治図書） 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法] 1時間の流れ</p> <p>1 これはどんな場面？ ⇒ ・『ぼく』の悪口を言っている。」</p> <p>2 女の子たちは何と言っているの？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「隣の女の子は体操服を忘れた。」と言っている。 ・「女の子は男の子を指さしていない。」 <p>（教師）⇒「男の子の思い込みだね。」</p> <p>⇒『ぼく』のことを指さしたり、冷やかしたりしているのではないのでは？ と考える冷静さや広い見方ができるといいね。</p> <p>3 女の子たちはどうすればいい？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「男の子の方に指をささない。男の子は『ぼく』を指さしていると思うから。」 <p>（教師）⇒「まぎらわしいことはしないということですね。」</p> <p>⇒「相手の気持ちを想像するといいですね。」</p> <p>4 男の子はこの場面でどう考えたらいい？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『ぼく』のことではしゃいでいるのではないのかも。」 <p>（教師）⇒「落ち着いて、相手の立場になって考えるといいね。」</p> <p>⇒「思いやりの気持ちがあると見え方が変わるかもしれませんね。」</p> <p>5 男の子はこの時にどうすればいい？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「笑顔でやさしく話しかけたらいい。」 <p>（教師）⇒「不安なことやもやもやすることはそのままにしないことが大切だね。」</p> <p>⇒「勇気を出して、声をかけることが大切ですね。」</p> <p>[児童の様子、成果（児童の感想）]</p> <p>「こんな時どうする？」では、女の子がまぎらわしい行動をしていたのが問題でした。男の子の方もせまい見方しかできていなかったため、女の子に声をかけたらよかったということをお勉強しました。</p>	

小学校	いろいろな人と関わり、自分の気持ちを上手く表現できるようになるための指導
<p>★対象児童 (6)年 対象障害種(自閉スペクトラム症)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まじめで素直、とても優しい。慣れた人には穏やかに接することができる。 ・大人数の空間に苦手意識があり、固まってしまう。慣れない人には緘黙傾向。 ・3年生より不登校になり、学習経験の積み重ねができていない。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分がしたいことや気持ちを言葉で表現して、伝えることができる。 ・同学年の児童と関わる機会を増やし、少しずつ集団の中に入れるようにする。 <p>【自立活動6コミュニケーションー(1)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルゲーム「SPACE ESCAPE」(Mind Ware) ・「ことばのテーブル100枚プリント」(言語・学習指導室「葛西ことばのテーブル」) ・ハロウィンサイン集めカード(自作) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① ソーシャルゲーム 「SPACE ESCAPE」</p> <p>通級指導の時間に、教師と1対1でゲームを行い、ルールを確認した。対戦型ゲームではなく、参加者全員が協力してゴールを目指すゲームであることから、何度もやるうちにどうやったらゴールできるかよく考えられていた。二人で十分楽しんだ後、昼休みに、他の通級児童を誘って一緒に遊んだ。普段、慣れた教師にしか話さない対象児童が、積極的にルールを教えたり、「こっちに動いた方がいいよ」とアドバイスしたりする姿が見られた。</p> <p>② コミュニケーションのトレーニング 「ことばのテーブル」</p> <p>空いている吹き出しに、次のせりふにつながるように会話文を書き込むワーク。慣れてきたら、実際に会話を続ける練習もした。</p> <p>③ サイン集め作戦</p> <p>○修学旅行で困ったことがあった際に、できるだけ多くの教師や友だちに自分から助けを求められるよう、事前に、修学旅行に行く人を中心にサイン集め作戦を行った。ハロウィン時期だったこともあり、「Trick or Treat サインをください」というセリフを練習し、できるだけ自分から声をかけられるよう促した。難しいことが予想されたので、事前に先生方に支援をお願いしていた。達成した時はとても嬉しそうだった。</p> <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 慣れない環境や大勢が集まる場所では緊張してしまい、動けなくなったり、緘黙になったりしていたが、自分がしたことがあるソーシャルゲームならリラックスして他児童と一緒に遊ぶことができた。 ★ 修学旅行前にサイン集め作戦を行ったことで、修学旅行で困った時、だれに頼ればいいのか分かるとともに、話せる自信が少しだけつき、実際の旅行中、何人かの教師に自分から話しかけることができた。まだ誰とでも会話できるわけではないし、体調や環境によっても違うが、少しずつコミュニケーションがとれる人が増えている。 	



「SPACE ESCAPE」で遊ぶ児童



ことばのテーブル



ハロウィンサイン集めカード

中学校、高等学校：学習面・生活面・
心理的な安定に関する課題への指導

中学校	自分にあった方法で、意思表示ができるようになるための指導
<p>★対象生徒 (1)年 対象障害種(場面緘黙)</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家族とは会話ができるが、学校では発語がない。一人だけ意思疎通ができる友達がいる(会話の声は職員は聞いたことがない)。 ・ 表情にほとんど変化が見られない。教室移動は一人でできるが、行動すべてがゆっくりである。適切なタイミングで行動することが難しい。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分にあった方法で、意思表示ができる。 ・ 安心して関われる大人(職員)を増やす。 ・ 保護者と連携し、可能な限り合理的配慮に基づいた支援を行う。 <p style="text-align: center;">【自立活動 6 コミュニケーショナー(4)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ボードゲーム等、(タイピングゲーム(タブレットと使って無料ゲームをした)) ・ BGM(年度当初は緊張緩和のため、BGMを流していた。) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>(1) 通級でしたこと</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 通級指導担当の座席を先に示し、その後、生徒に自分が座りたい場所を選んでもらう。(対面では、緊張度が高いと思われたが毎回対面になる座席を選んでいった。このことから、発語はないが、コミュニケーションをとろうとしてくれていることが想像できた。) ② 通級で何時まで過ごしたいか、何をしたいかを紙に書いてもらった。負担を考え、選択肢を設ける等した。初回の通級では、「～分で書いてね」と生徒が書く間は、後ろに向き、ゆっくり数を数えた。2回目は、あえて対面のまま数を数えた。2学期になってからは、書いたら用紙を担当者が差し出した手の上に乗せてもらった。 ③ ゲームの種類は二人で対戦するものや一人で繰り返し遊ぶものなど、生徒が選んだものを一緒に楽しんだ。予定の時間になると、どうしたいのかを筆談で再度確認した。ほとんど表情は変わらないが、相手(通級担当者)がゲームで失敗をした時などに少し表情を和らげたことがあった。 ④ 通級後は、母親を通じて生徒の感想を教えていただいた。 <p>(2) 保護者との共通理解に基づいた合理的配慮の例</p> <p>通級の様子を職員、保護者と共有した上で、学校生活で取り組んだこと</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 教室での係活動等の配慮 ② 各教科のパフォーマンステスト <ul style="list-style-type: none"> ・ 理科…ガスバーナーの使い方のテストは放課後、教員と一対一で行った。 ・ 音楽…歌のテストは、音楽担当の教員が伴奏を録音したCDを生徒に持ち帰ってもらい、家で歌をタブレットに録音して提出してもらった。 <p>[生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 緘黙の状態はかわらないが、先生方の理解・協力があり、「できた」ことが増えた。 ★ 生徒本人が友達(特定の子以外の)や先生に自分から働きかける様子はまだ見られない。 	

中学校	前向きに漢字学習に取り組めるための指導
<p>★対象生徒 (1)年 対象障害種 (ADHD)</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校中学年からの漢字の多くが未習得になっていることで、様々な教科で困難さを感じている。 ・前時の学習内容を忘れていることが多く、自分でも家庭学習の必要性を感じている。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校で習う漢字を習得する。 ・家庭で自分から宿題を始められるようになる。【自立活動2心理的な安定一(3)】 <p>障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カラーマスノート(日本医療福祉教育コミュニケーションズ協会) ・漢字イラストカード(山田充、かもがわ出版) ・ハッサムファイル(KING JIM) ・ミチムラ式漢字カード(かんじクラウド株式会社)・がんばり表とけん玉券(自作) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① ・「漢字がごちゃごちゃに見えて、分かりにくい」との本人の訴えから、漢字の形を捉えやすくなるというカラーマスノートを使用して練習をした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・また、「投」の字を思い出すときに、「手で投げるから手偏。『几』は頭のことかな。『又』は足を踏ん張っているみたい。」と話しながら書くと覚えられたので、漢字の成り立ちが分かるミチムラ式漢字カードを利用した。 <p>① ・家で宿題をする習慣をつけるために、通級時に覚えたい漢字7つをカラーマスシートに1回ずつ練習し、宿題としても1回ずつ書くこととした。がんばりカードを作り、宿題を家でしてきたらシールを貼り、10枚たまると「けん玉券」5枚を手に入れられるようにした。「けん玉券」1枚につき、通級指導の時間中に、5分間けん玉ができる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿題を持ち帰ることを忘れていたり、宿題の存在を思い出せなかったりしていたので、目につきやすい赤色のハッサムファイルに宿題を挟んで持ち帰るようにした。「ハッサムさん、カバンに入れてね。」「ハッサムさん、持ってきた？」と声掛けをして宿題を意識させた。 <p>[児童生徒の様子、成果]</p> <p>★ 数学で新しい単元に入ったときに全く分からなくなり、授業でもらったプリントを破ったりノートを取らなくなったりするなど、学習に対して消極的な姿が見られた。そのため、「通級の中で楽しめることを考えよう」と本人と話したことから、けん玉券の発行が決まった。今は授業にも通級の宿題にも前向きに取り組もうとしており、けん玉券を手に入れると、いろいろな技を見せてくれている。</p> <p>★ 最初は漢字に対する苦手意識が強く、書くことを嫌がっていたため、読み方の学習→イラストで意味を確認→1回書くという段階を踏むようにした。覚えたかどうかの確認テストは行っていないため、定着度は正確に測れておらず、今後の課題だと考えている。</p> <p>★ 今は通級の宿題として漢字の練習だけを出しているが、計算の解き方を定着させるためにも、数学も宿題に追加していこうと話している。</p>	

- ★対象生徒 (1)年 対象障害種 (LD)
 - ★対象生徒の特徴
 - ・学習活動に対して興味のあることには前向きに取り組もうとし、好きな話題については自分から積極的に話をするができる。
 - ・飛ばし読みや勝手読みがみられ文章の意味理解が不十分だったり、数概念の習得が十分でなかったりするが、理解しようと努力することはできる。
 - ★目標
 - ・学習課題を理解して課題の追求に向けて、学習活動に取り組むことができる。
 - ・文章を認識し大まかな内容を理解することができたり、数概の理解の学習に取り組んだりすることができる。
- 【自立活動2心理的な安定－(1)、(3)、4環境の把握－(2)】
- ★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等
 - ・「メノコト365」(わかさ生活) ・「LITALICO 発達ナビ」
 - ・「コグトレ」(宮口幸治、三輪書店)
 - ・「教室で使えるコグトレ」(宮口幸治、東洋館出版社)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

※自作のスライドを用意し、視覚的な資料を活用することで見通しをもち学習を進めることができるようにする。

①ワーキングメモリトレーニング

- 「視覚性の単純短期記憶」「視空間ワーキングメモリ」「聴覚(言語性)ワーキングメモリ」のトレーニング
 - ・コグトレを利用した活動例
 - 「何があった？」を行い視覚性の単純短期記憶をトレーニング。
 - 「数字と文字はどこ？」を行い視空間ワーキングメモリをトレーニング。「最初とポン」「何が一番」などを繰り返し行うことで、「聴覚(言語性)ワーキングメモリ」のトレーニングを実施する。
 - 「さがし算」の中でも、「3つの数字を足して9になる数字を選ぶ」問題は、一つの計算結果を頭に入れてもう一つの計算をする点でも有効だと考える。




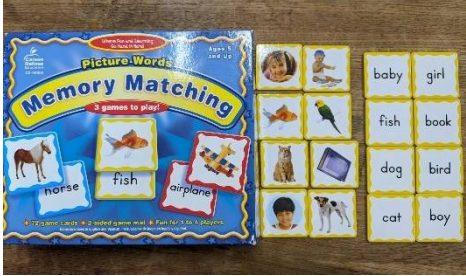



②ビジョントレーニング

- 「見る力」を高める取組
 - ・跳躍性眼球運動、追従性眼球運動等の眼球運動のトレーニングを繰り返すことにより、「文字の読み飛ばし」、「見ている位置から他の場所へ視線を移動させる機能が弱い」といった状態の改善が期待できる。



[生徒の様子、成果]

★ 「コグトレ」を使っての学習(ワーキングメモリトレーニング等)を繰り返すことで、徐々にではあるが認知機能が強化されて、学習面での土台が培われてきていると思える。また、ワーキングメモリトレーニングは、論理的推論力を高めたり数的推論力を伸ばすことにもつながっていると感じている。ビジョントレーニングの実践継続により、飛ばし読みや勝手読みが減り文章の意味理解が徐々に向上してきている。

中学校	英単語を読むための指導
<p>★対象生徒 (1)年 対象障害種 (LD,ADHD)</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> • 基本的な読みのルールは覚えているが、ときどき間違えることがある。 • つづりを書くのが苦手だが、英語の読みは意欲的に取り組める。 <p>★目標 英語が読めるようになることで、英語学習に自信をもつことができる。</p> <p>【自立活動 2 心理的な安定ー (3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「Match and Spell」 (Orchardtoys) • 「Memory Matching」 (Carson-dellosa) • 「魔法の読み書きアプリ」 (東京書籍) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>≪文字の読み方指導≫</p> <p>フォニックス (文字の読みルールを覚え、それをもとに単語を読む学習方法) を繰り返し練習する。</p> <p>手順</p> <ul style="list-style-type: none"> • アルファベットの英語読みをおさえる。 A⇒ア B⇒ブ C⇒ク D⇒ドゥ E⇒エなど (歌や絵本などが Youtube にあがっています。) • 絵を見て口頭で英語を言えるようになる。 • バス⇒B+U+S をカードで並べる。 • 短い語から長い語に語数を増やしていく。 • 音と文字が一致してきたら、2つの文字で1つの音を表すものも練習する。(sh,ck,th など) • 単語が読めるようになってきたら、カルタ形式で <ol style="list-style-type: none"> ①読まれた絵を取る ②文字を取る ③絵と文字をマッチングする、などゲーム形式で練習する。 • 「魔法の読み書きアプリ」を使って、音声聞いて、単語の最初の文字や最後の文字を選択する。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;">    </div> <p>[生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ フォニックスの学習は単調になりがちだが、ゲーム形式やアプリを取り入れることで少しずつ読める単語が増えてきた。 ★ 読むことから書くことへのハードルが下がりつつあるが、ミスがしばしばあり、テストで良い結果が出るまでには至っていない。 	

中学校	家庭学習を習慣化させるための指導
-----	------------------

★対象生徒 (2)年 対象障害種(広汎性発達障害)

★対象生徒の特徴

生活態度や学習態度は非常にまじめである。係活動や指示されたことなどにも真摯に取り組む。本生徒の課題は、そのようにまじめな性格であるにもかかわらず、宿題がほとんどできないことである。漢字などある程度の時間をかければできるものや、解答を渡しているものもほとんど提出できていない。学力の低さも原因の一つではあるが、見通しをもって計画を立てることが苦手であること、家庭では自分のしたいことを優先させてしまうことなどが原因と考えられる。

★目標

1日1時間家庭学習をする。【自立活動2心理的な安定一(3)】

★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等
ダイアリー(生活記録)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

1 学習内容

○ 家庭学習について目標を立てて取り組む。(学期ごと、または状況に応じて見直す)

2年2学期現在の目標：1日に3種類の学習をしてダイアリーに記録する

○ 毎日の学習内容をダイアリーに記入する習慣をつけることで家庭学習を習慣化させる。

2 指導方法

- 毎日、家庭学習として、したこと、かかった時間をダイアリーに記入させ、週1回の通級指導時に確認する。
- 通級指導時には、その時間にすべき学習を選ばせ、一緒に進める。具体的には、その日の授業で学習したところのワークをしたり、今宿題として出ているものをしたりすることで、何にどれくらいの時間がかかるのか、授業と家庭学習をどのようにつなぐとよいかなどを把握させたり考えさせたりする。
- 最後の10分間を使って、その日と次の日2日分の家庭学習の計画を立てさせ、項目をダイアリーに書き込ませる。
- 目標が達成できた日は、シールをはって賞賛する。
- 宿題のワーク類は、内容、様子をみて分量を軽減する。
(例) 数学のベーシックは半分だけする、国語のワークは、語句、用語、書き抜き問題に絞るなど
- 定期テスト前には、塗りつぶし方式の範囲表を別途配布する。

今日の家庭学習	教科	内容	時間
	数	HP1	6分~
	英	ペーパー	15分~
	理	中理124	10分~

＜ダイアリーの記録＞

R7 第1学年 2学期中間テスト 提出物チェック						
9月18日迄	教科	内容				
	英語	中英	33	34	35	36
	社会	分析	16	17	18	19
		学習ワーク	24	28	29	30
	国語	国文法	6	7	8	9
	漢字ノート	22	23	24	25	

＜定期テストのチェック表＞

[生徒の様子、成果]

★1学期の初めは、「1日1時間」を目標としていたが、なかなか達成できず、まずは、「少しずつでも学習すること」、「必ず記録をすること」を当面の目標とした。1学期のうちは、通級で約束してもほとんどできない週が続いたが、2学期に入り、少しずつ記録できる日が増えてきた。3つの欄がすべて埋まる日はまだ少ないが、平日はほぼ毎日記録できるようになった。

中学校	基礎学力の向上と提出物の自己管理のための指導
-----	------------------------

- ★対象生徒 (2)年 対象障害種 (LD、場面かん黙)
- ★対象生徒の特徴
 - 提出物の種類や期限の管理が難しい。
 - 慣れると教師に対しても自己アピールをしてくれるが、慣れない場所や相手であると受け答えができない。
 - 国語科、数学科などの基礎的な学力が定着していない部分が多い。
- ★目標
 - 提出物の管理ができるようになること
 - 自分の意見を表出できるようになること
- 【自立活動 6コミュニケーション (5)】
- ★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等
 - 市販のクロスワードパズル

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

(毎時間共通)

- ①週末課題一覧表を持参させ、期日までに提出できているかを確認する。
 - もし終わっていない課題があれば、サポートし少し課題を取り組ませる。
 →漢字はできるだけ自力で取り組ませ、数学科は図形問題や簡単な計算問題などはサポートしながらできるだけ自力で取り組ませる。
- ②残った時間でクロスワードパズルに挑戦する
 - 最低限のルールは小学生レベルの簡単なクロスワードパズルで説明し、ある程度自力で解けることを確認したうえで市販のものに挑戦させている。
 - 基本的には自力で解き、分からないものは教師、タブレット端末などを活用し調べる。(声を掛けてくるまでは基本見守る。)



(職場体験に向けて)

- 対人コミュニケーションが苦手なため、電話でのアポ取りの練習、事前打ち合わせの練習を行った。

職場体験 こんな時どうする？

場面1) 職場体験初日！何とあいさつする？

場面2) 担当の人から指示が！でもよく分からなかった…

- 職場体験学習直前の授業で

は、勤務時に本人に起こりそうな場面を想定しSSTを行った

(例：担当の人から指示をもらったが分からなかった、退勤時になんと声を掛けて帰るか など)

[生徒の様子、成果]

- ★本人がクロスワードパズルを気に入った様子で、パズルをするために課題の通級の授業までに仕上げようという姿勢が見られた。(本人の能力上難しいものはあるが)
- ★職場体験学習の事前練習を図書室で司書教諭と協力して行ったことで、当日自身が何に困るかもしれないのかなどの心の準備をさせることができた。

中学校	自分を理解し、「良さや強み」を伸ばすための指導
-----	-------------------------

★対象生徒 (2)年 対象障害種(多動性障害・LD)

★対象生徒の特徴

- ・漢字の読み書き、文章を書くことが苦手である。タブレット端末を使うのが得意。
- ・人と接するのは好きであるが、相手の気持ちを考えず思ったことを口にする時がある。

★目標

- ・自分の長所や短所を知り、「良さや強み」を伸ばすことができる。
- ・週末課題の提出において、計画を立てたり振り返ったりすることができる。

【自立活動 3人間関係の形成ー(3)】

★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等

- ・自己紹介クイズゲーム『佐藤です。好きなおにぎりの具は梅です。』(幻冬舎)
- ・Google フォーム、スプレッドシートの活用(週末課題提出振り返りのため)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

【学習内容と指導方法】

1. 自分について語る … 自己紹介クイズゲームを用いて即興で自分のことを伝える。

2. 読解力や語彙力をつける

- ・『イソップ物語』の音読と『コナンの10才までに覚えたい難しいことば』(小学館)を用いての語彙力を増やすための時間を毎時間もうける。

3. 課題提出の計画や振り返りを継続して行う

- ・週末課題の内容確認、いつどこでするかを計画、提出状況の確認、振り返りを、タブレット端末(スプレッドシート)に行う。
- ・「頑張った」「できた」「次こそは頑張ろう」という経験を積み重ねることにより、学ぶ意欲や困難を改善する力につなげる。

The screenshot shows a Google Sheet with columns for '課題' (Homework), '確認' (Check), '振り返り' (Review), and '達成' (Achievement). It contains rows for '作文の学習' (Writing learning), '数学の学習' (Math learning), and '読書の学習' (Reading learning). There are checkboxes and colored cells indicating progress.

〈振り返りシート〉

4. 自分理解を深める

①「自己を知ること」の必要性や方法を知る

職場体験学習に合わせてオリジナル履歴書を作成する。自分のことを相手に知ってもらうためには自分のことをよく理解することが大切である。日々の生活の中で友達関係を築いたり、将来、進学や就職など進路選択の際にも役に立ち必要なことを確認する。

②履歴書作成にあたって何をアピールすればいいか考える

AIも活用する。「長所や短所」、「性格」、「趣味」、「特技」、「頑張っていること」等。

③自己理解と職場体験でどう生かすかを考える

- ・自分で考える。(自己理解ワークシート・ストレングスカード等)
- ・身近な教員や保護者からの情報及びメッセージを参考。
- ・『ジョハリの4つの窓』を活用して整理する。

自分も他者も認める自分」「自分が気づいていない自分」等
他者から見た自分についても知る。教員や保護者の思いも知る。



〈ジョハリの4つの窓〉

- ・タブレット端末を用いてお世話になる職場について調べる。

④オリジナル履歴書を完成する → 職場体験学習で自分の「良さや強み」を生かす

【生徒の様子、成果】

★ 自己理解の学習では、自分から見た自分や他人から見た自分など、いろいろな角度から自分を知ることができた。保護者や教員からのメッセージはうれしかったようである。

★ 計画や振り返りを継続して行うことにより課題提出への意識は高まるが、自分で実行に移すことは難しい。教科担任の声かけがあると頑張れる面があるので、引き続き依頼したい。

中学校	集中力を高め、学習習慣を定着させるための指導
<p>★対象生徒 (2)年 対象障害種 (LDの疑い)</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非常におとなしく、自ら前には出ることがないが、友人と仲良く学校生活を送っている。 ・基礎的な学力を定着させるために時間がかかる。 ・タブレットの操作がままならない。 ・与えられた課題に対して前向きに取り組むが、自力で終わらせることは難しい。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題を円滑かつ正確に処理することができる。【自立活動4環境の把握—(4)】 ・タイピング練習をして、タイピングによる表出の円滑化を図る。 【自立活動6 コミュニケーション—(2)】 <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「寿司打」 (http://sushida.net) ・「TOSS ペーパーチャレラン全集④」(東京教育技術研究所) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>【指導方法と学習内容】</p> <p>①数学の学習</p> <p>○四則計算が定着していないように感じるため、ゲーム形式で、学習をしている。五教科の中でも特に、数学に課題を感じている。ワークを見ると少し固まってしまう様子が見られたので、まずは穴埋めや、カードなど、本人に抵抗がなさそうなものを準備し、最終的に二年生の内容に入っていければ理想であると考えている。</p> <p>②タイピングの学習</p> <p>○ローマ字の母音と子音の組み合わせを確認し、五十音順に書けるようにする。その後、ローマ字を使った簡単なゲーム形式での学習を行って、組み合わせや日本語との規則性を身に付けさせる。そして、タブレットを使い、タイピングの練習を行う。初めは画面に表示されているローマ字を確認しながら入力していき、最後には、日本語のみの文書を入力できるようにする。</p> <div data-bbox="890 831 1187 1227" style="text-align: center;"> </div> <p>【生徒の様子、成果】</p> <p>★理解ができず困っている様子も多々見られるが、通級の活動に意欲的に取り組んでいる。教員の指示を確実に聞き、分からないことがあれば質問するなど、学習に対する前向きな姿勢を感じられる。</p> <p>★様々な教科で基礎から躓いており、短期間での改善はかなり厳しいと感じる。しかし、継続的に続けていくことで確実に力になっている。また、本人がその必要性を本当に感じているのか。根本から変わっていかねければ、この点の改善は厳しいと感じている。しかし、本人の前向きな姿勢がこのことに大きな進歩をもたらしてくれるのではないかと思う。できないことを教員が確認し、一つ一つ丁寧に学習に興味を持って取り組ませていきたい。</p>	

中学校	自分の性格や長所に目を向け、身だしなみを整えるための指導
-----	------------------------------

★対象生徒 (2)年 対象障害種 (LD)

★対象生徒の特徴

- ・対人関係を築くことに困難さがある。慣れない相手には、自分から話しかけることが難しい。
- ・集団の中で、他者と一緒にペースを合わせて行動することが苦手である。また、身だしなみに対して無頓着であるので、周囲から浮きそうになることがある。

★目標

- ・自分の性格や長所に目を向け、身だしなみを整えようとする事ができる。

【自立活動3人間関係の形成一(3)】

★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等

- ・「あたまと心で考えよう SSTワークシート 思春期編」
(NPOフットーロ LD発達相談センターかながわ編著、かもがわ出版)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①一週間の振り返り

- ・よかったことやがんばったこと、困ったこと、心配なことなどを話す。
- ・困ったことや心配なことについては、教員と一緒に対策を考える。

②素敵な先輩になろう

- ・ワークシートの両端の2つの性格やタイプを比べ、自分がどちらに近いかを考える。
- ・身だしなみを整え、清潔であることの必要性を知り、自分自身が衛生面についてどのような課題があるかを考える。
- ・洗髪を実際に行うことができるように、そのコツを人形を使って練習をする。
- ・洗髪をすることができたかどうか生活記録ノートに記録をする。

〈性格やタイプについて〉

③数学学習

- ・「苦手な数学を勉強して、わからない問題を減らしていきたい」という本人の目標を達成することができるよう、自力では解き方がわからなかった問題を一緒に解く。
- ・間違いやすい箇所や重要なことをまとめた『本日のポイント』を一緒に確認し、自宅学習で活用することができるようにする。

〈身だしなみについて〉

[生徒の様子、成果]

- ★振り返りで、本人の頑張りや長所を称賛したり、本人が話し始めるまでじっくり待ったりすることで、笑顔で話す場面が増えるようになってきた。
- ★給食後、口の周辺が汚れていないか気を付けようとする場面が増えてきた。
- ★洗髪をきれいに行うことが難しかったが、予洗いを意識することで、洗髪後のべたつき感が少なくなってきた。

★対象生徒 (3)年 対象障害種 (ADHD)

★対象生徒の特徴

- ・学習に苦手意識をもっており集中して取り組むことが難しく、座席を離れたりトイレにこもったりすることがある。しかし、文字を書き写したり絵を描いたりすることは得意であり、短時間であれば黙々と取り組むことができる。
- ・自分の感情のコントロールが苦手で、気になることがあっても自分の言葉で表現することが難しく周りの人にうまく伝えられない。

★目標

- ・高校入試に向けて50分間、集中して学習に取り組めるようにする。
- ・自分の気持ちを言葉やイラストを使って周りに伝えられるようにする。

【自立活動3人間関係の形成 一(3)】

★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等

- ・英単語ワークシート(自作)、ぬりえ
- ・黒板

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

【学習内容と指導方法】

①英単語ワークシート

5分間で単語や連語を書き写し、単語のつづりを覚える。1年時に学習した単語から順に学習することで入試対策にも繋げられる。また、ワークシート内に品詞、意味も記入してあるので、つづりと同時に品詞や意味も覚えることができる。

8	which	形容詞	どの、どちらの	○	○	○
9	yours	代名詞	あなたのもの	○	○	○
10	both	代名詞	両方	○	○	○
11	eight	形容詞	明かい	○	○	○
12	other	形容詞	ほかの	○	○	○
13	hen	代名詞	彼女の、彼女を【に】	○	○	○
14	does	助動詞	doの三人称単数形	○	○	○
15	family	名詞	家族	○	○	○
16	player	名詞	選手	○	○	○

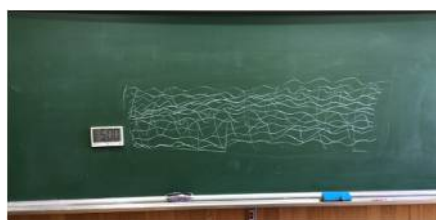
[英単語ワークシート]

②ぬりえ

10分間、静かに色塗りをする。落ち着いた作業することにより、その後の活動も落ち着いて行うことができるようになっている。

③黒板

自分の気持ちを表現するために黒板を使っている。文字だけでなく、絵や線を使って自分の気持ちを表現できるようにしている。モヤモヤしているときはあまり話さなくなるが、黒板を使うことで少しでも自分の気持ちを表し、理解してもらえるようにしている。



[黒板を使って気持ちを表現]

【生徒の様子、成果】

- ★文字を書き写すことやぬりえ等、生徒の興味のあることを授業の最初の5~10分間で取り組むことにより、後の活動に落ち着いて移ることができるようになっている。また、短時間の活動をテンポよく取り入れることで、少しずつ集中できる時間が伸びてきた。
- ★黒板を使って文字や線などを書くことで気持ちを表現することができるようになっている。これまでは気になることがあると何も言わず他事をしようしたり、トイレにこもったりすることが多かったが、単語での表現ではあるが、自分の気持ちを伝えられるようになってきた。

中学校	入試面接の自己PRと作文指導
<p>★対象生徒 (3)年 対象障害種 (ASD 選択制場面緘黙)</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分の気持ちや状況を説明することが苦手。語いが少ない。 • 自己肯定感が低い。 • 苦手なことには取り組まない。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> • 高校入試に向けて自分のことを3文で紹介することができる。 • テーマにあった作文を書くことができる。 <p style="text-align: right;">【自立活動6コミュニケーションー (3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材 (お役立ちグッズ) 等</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「短所を長所に変えたい焼き」(株式会社アイアップ) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① 1週間の出来事を紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通級で1週間の振り返りを3文で紹介する。 • 教師は、時事内容を踏まえて紹介する。 • タブレットで話題になっている内容を3文で要約して紹介する。 <p>② 「これなあに」クイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> • 5文で物を紹介する。 • タブレットを活用して、ネット上の紹介文を参考に説明文を作成する。 <p>③ 自己PRの作成。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 短所を長所に変えたいカードを使って、自分の性格について考える。 • PRしたい所を文章にする。 • 具体例を挙げて説明する。 • 家族の紹介文を作る。 <p>④ テーマにあった作文を書く</p> <ul style="list-style-type: none"> • テーマから思いつく言葉をカテゴリーごとに分けながら書く。 • キーワードを文章にする。 • カテゴリーの数と指定の文字数から1つのカテゴリーを何文字で書くか決める。 <p>[生徒の様子、成果]</p> <p>★「自分に良いところはない。」と言っていたが、カードの裏の言葉から自分のことについての捉え方に変化が見られた。</p> <p>★本や新聞を読むことや、テレビでニュースを見ることがなかったが、身近に起こった出来事に興味を持ちはじめ、家の人やTVを見てると一緒に見るようになり、興味のある内容の単行本を読むようになった。「一週間の振り返り」で紹介する内容にも変化が見られた。</p> <p>★説明するときの内容に、形容詞や副詞を含んだ言葉を活用するようになった。</p> <p>★国語の作文のテストに取り組むようになった。</p>	

- ★対象生徒 (3)年 対象障害種(自閉症スペクトラム)
- ★対象生徒の特徴
 - ・感情のコントロールが苦手(特にアンガーマネジメント)
 - ・衝動性がある ・先を見通して行動する力に課題がある
- ★目標
 - ・卒業後、自立して一人暮らしをする際に必要なお金に関する知識を身につける。

【自立活動3 人間関係の形成—(3)】
- ★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等
 - ・「知的障害・発達障害の人たちの見てわかる社会生活ガイド集」(ジアース教育新社)

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

- ①お金の管理についてワークシートを用いて学習する。
- ②闇バイトについて知り、アルバイトを選ぶ際に注意すべきことを考える。

お金の管理

このシート目的
 大学生になるとアルバイトをしたりクレジットカードを作ったりできるので、自分が自由に使えるお金が増えます。しかし、好きなだけお金を使っているとどんどんお金は減っていき、お金のうまき付合っていないといけません。

お金にかかわるあれこれ

クレジットカード
 このカード一枚で高い買い物ができるが、後で使った金額を請求されるので、使いすぎに注意しなければならない。カード会社から一時的に請求を控えているようなもの。

利息(利息・金利ともいう)
 お金を貸したり借りたりするときに借りた人が貸してくれた人に支払うお金で、**借ったお金のほかにその何%かお金の支払分**

リボ払い
 クレジットカードの月々の支払いを少なくできる代わりに、支払う総額は増える仕組み。**返済先で有利**。つまり結果的に**買った金額よりもたくさん支払っていることになる**

分割払い
 クレジットカードで買い物をしたときに、その金額を何回かに分けて支払うこと。リボ払いほどではないが**返済が楽**

闇バイトに注意しよう

このシート目的
 大学生になってアルバイトをしていると、今のアルバイトよりも給与そのな仕事なのに時給が高いという好条件のアルバイトが見つかる場合があります。お金を稼ぐのは本来は大変なことなのに、なぜ楽をして大金を稼ぐことができるのでしょうか。

バイト	①	②	③	④
仕事内容	吉野家での調理、配膳	ファミレスでのガソリン給油	セブンイレブンでのレジ打ち	謎いネコを探す
勤務時間	10:00~17:00 休憩1時間あり	8:00~13:00 14:00~19:00	8:00~16:00 16:00~22:00 22:00~8:00	22:00~26:00
給料	時給()円 まかないあり	時給()円	時給()円 夜勤は+()円	日給8,000円
バイトの印象				
希望順位				

闇バイト()の特徴をまとめてみよう!

バイトを選ぶときに何に注意したらいいでしょうか?

[生徒の様子、成果]

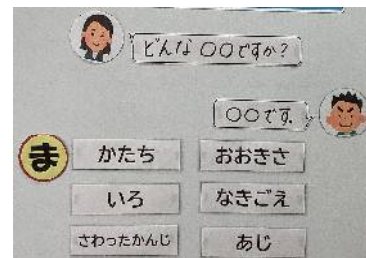
- ★ 利子や分割払いなど、お金に関する基礎知識を持っていなかったため、新鮮な様子で学習に取り組むことができていた。
- ★ アルバイトを選ぶ際には給料だけでなく、仕事内容や勤務時間など、様々な視点を持って選ぶ必要があることを理解することができた。

高等学校	自信をもって社会に出るための指導
<p>★対象生徒 (1)年 対象障害種(発達障害(ASD/ADHD/限局性学習障害))</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現在高校1年生の年齢だが、小学校2年生から登校に不安を抱え、3年生の時に特別支援学級への通級が決まったが、そのころから不登校になってしまった。家ではずっとゲームをしており、小学校低学年で学習がストップしている。特に漢字への苦手意識が高く、「書く」ことに時間がかかる。ずっと家の中でゲームをしていたので人と関わるのが苦手。自分が納得しないと行動しない頑固さもあるが、とても素直な性格であいさつなどもしっかりできる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校卒業後に社会に出るための練習を、高校在学中にしておく <p style="text-align: center;">【自立活動2心理的な安定—(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「漢字コグトレ」(宮口幸治、東洋館出版社) ・ 英単語帳 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①年齢にあった社会性を身につける</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 電車を使って学校に来る・・・10時に来るにはどうしたらいいのかを一緒に考え、試す ・ 一人暮らしに必要なスキル・・・一人で暮らすためには何ができないといけないかを一緒に考え、できそうなところからやっていく(本人が料理を選んだので、今は料理をしている) ・ 連絡相談報告の練習・・・電車に乗り遅れて、学校に遅れそうなときはどうするか、どこに誰に連絡するかを一緒に考える、など <p>②道具について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ まっすぐ座って書くには? 書きやすい道具は? 足が動いてしまう時には? ・ 「くらし快適館」に一緒にいって様々な道具を試した。鉛筆を書きにくそうにしながら使っていたので太めのシャープペンシルを使うことを勧めたら、今は楽しそうに使っている。 <p>③学習について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 漢字の学習・・・漢字が書けなくても読むことができ、パソコンで入力できたらいいと思っていたのだが、本人がやりたいというのでコグトレや漢字練習帳で学習を実施している。 ・ 語彙の確認・・・言葉を知らないのを、意味の確認を一緒にしている。高校に入学してから英語に興味を持っており、英単語の意味(例: mention「言及する」ってどういうことかな?など)を確認して、語彙を増やしている。漢字は書けないが語彙は豊富なので、「国語が苦手」と言っていたが「国語はよくできている。漢字が苦手なんだね」と意識改革をしている。 <p>④生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活リズムを整える・・・「昼夜逆転してゲームをすることは、いったい何がダメな部分なんだろう」と一緒に考え、生活リズムの改善に取り組んでいる。通級に来る時も本人は午後からというが、早起きをさせるために朝に実施している。 <p>[生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 長年のひきこもり生活から学校に出てくるだけでも相当な勇気が必要としていたのだが、4月当初の不安な顔はしていない。困ったことがあるとSOSが出せるようになってきた(例「クラスでお弁当を食べられない。どうしたらいいか」など) ★ 通級という名目で外に出る機会が増えたことも成果なのではないかと思っている。学校に来ることで家族以外の人と話をする機会も増え、社会性を身につけていくのだろうと考えている。 	

小学校・特別支援学校

言語障害・難聴・弱視に関する課題への指導

小学校	知りたいことを聞いたり伝えたりするための指導
<p>★対象児童 (1)年 対象障害種(言語発達遅滞)</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> • ひらがなの読み書きが苦手であるが、そばで称賛したり量を調節することで粘り強く頑張れるようになった。 • 会話がちぐはぐになることがあるが、通級での個別指導では目を見て教師の話をしっかり聞こうとする姿が見られる。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> • 自分の思いをことばで伝えたり、適切な質問をしたりできる。 【自立活動6コミュニケーションー(2)】 • 困ったときに、質問したり確かめたりする方法を習得する。 【自立活動2心理的な安定ー(3)】 <p>★参考資料、有効だった教具・教材(お役立ちグッズ)等</p> <ul style="list-style-type: none"> • 「表現力が身につくカード③なんのなかま?」(合同出版) 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①口と舌の体操</p> <ul style="list-style-type: none"> • 鏡を見ながら口や舌の体操をして、口の周りをゆっくり大きく動かすようにする。 <p>②見る聞くトレーニング</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字を正しく読む力をつけるために、迷路や間違い探しなど、関心に合わせたビジョントレーニングを行い、見る力をつける。 • 正しく聞き取る力を身につけるために、「きくきくドリル」を行う。 <p>③わたしはだれでしょうクイズ</p> <ul style="list-style-type: none"> • なんのなかまカードの中から、クイズにするカードを選び、相手の頭に置く。置かれた人は、「どんな色ですか?」「どんな形ですか?」などと質問をして、置かれたカードを当てるゲームを行う。 • 教師と交代でクイズを出し合い、質問の仕方や答え方などを模倣し、どんな質問をしたら良いのか見通しをもたせる。板書にも、質問した項目を貼る。 • 質問と答えがちぐはぐになったときは、もう一度問い返し、どう表現したら良いか教師と一緒に考える。 <p>④ひらがなを書く練習</p> <ul style="list-style-type: none"> • できた達成感をもたせるために、正解したカードの名称を、ひらがなで書く練習をする。カードに文字が書いてあるため、分からない時にはカードを見ながら書けるようにする。 <p>[児童の様子、成果]</p> <p>★わたしはだれでしょうのクイズを楽しくやりとりすることで、適切な質問をしたり答えたりすることができ、また「分かった」「伝わった」という達成感をもつことができた。</p> <p>★書くことに強い抵抗感がある児童だが、クイズの流れで正解したカードの名称を書く活動にも意欲的に取り組むことができた。</p>	



小学校	読み書きを改善するための指導
<p>★対象児童 3年 対象障害種（読み書きの困難）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・逐次読みで音読に時間がかかる。言葉のまとまりを見つけるのが難しい。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流暢に音読することができる。 【自立活動4環境の把握一（2）】 <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「多層指導モデル MIM 読みのアセスメント・指導パッケージ」（海津亜希子、Gakken） ・「ビジョントレーニング」（北出勝也、ナツメ社） ・言葉カード（自作） 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>① 舌のストレッチ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・「あえいうえおあお、あいうえお」や早口言葉等の発声練習をする。</p> </div> <p>口をしっかりと開け閉めすることを意識しながら行い、相手が聞き取りやすいよう発音することを目指している。</p> <p>② ビジョントレーニング</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・ひらがなランダム読みや言葉探しをしたり、じゃんけんゲームをしたりする。</p> </div> <p>文字を目で追う力をつけるために行い、ゲーム感覚で楽しくトレーニングできるようにしている。</p> <p>③ 言葉カード</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・カードを見せて、すぐ伏せ、何と書いていたか答えてもらう。初めは2～3文字で、徐々に文字数を増やしていく。</p> <p>・〇から始まる、〇で終わる言葉を考える。</p> </div> <p>短時間で何の言葉か判断できるようにしたい。1字1字追うのではなく、1つの言葉のまとまりとして見るができるようにする。</p> <p>④ 多層指導モデル MIM（読みのアセスメント・指導パッケージ）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・絵に合う言葉探しや3つの言葉探し、聴写などをする。</p> </div> <p>⑤ 音読</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・詩の音読</p> <p>・文節ごとに隙間がある文章の音読</p> <p>・自分で区切りを入れて音読</p> </div> <p>読むことへの抵抗を減らすために、簡単なもの、リズムよく読めるものから順に難易度を上げていく。</p> <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ ひらがなを1文字ずつ読むことが減ってきた。3文字程度の単語はすらすら読めている。 ★ 音読に苦手意識はあるが、挑戦しようという気持ちで取り組むことができている。 	

★対象児童（小学1）年 対象障害種（伝音性難聴）

★対象児童の特徴

- ・明るく活発な性格で、友達や教員とのやりとりを楽しむことができる。
- ・課題に意欲的に取り組もうとするが、集中が続かず、すぐにおしゃべりをしてしまう。
- ・学習に関する語彙力は弱いが、目的語に似たような言葉を想像したり、近い言葉を考えたりすることができる。

★目標

- ・補聴器の操作と管理ができる。【自立活動4環境の把握ー（4）】
- ・語彙を増やすとともに、それに関する上位概念を学ぶ。

【自立活動6コミュニケーションー（3）】

★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等

- ・電池チェッカー ・電池残量確認用イラスト（自作） ・イヤモールド掃除キット
- ・卓上用カレンダー（電池についているシールを貼る） ・ことば絵じてん（自作）

学習内容や指導方法、児童生徒の様子等

[学習内容と指導方法]

①補聴器管理

(1) 補聴器の電池残量を電池チェッカーでチェックする。

確認用のイラストで電池残量を確認する。電池残量がない場合には電池を交換する。その際、剥がした電池用シールを卓上用カレンダーに貼る。



(2) 卓上用カレンダーを参考に、次の電池交換時期を予想する。

シールを参考に電池を交換した間隔を知る。次回の交換時期を大体予想し、電池が交換できるようにする。

10月						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

(3) イヤモールドの掃除

イヤモールドの汚れをチェックする。必要に応じて、ティッシュペーパーで作ったこよりや掃除キットを使って掃除を行う。

②ことば絵じてん

見たり経験したりしたものの絵や写真を集め、上位概念ごとのページに分けて作る。



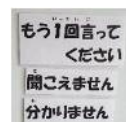
[児童の様子、成果]

★これまでは母親がイヤモールドの掃除や電池の確認を行って

いたため、通級の時間に行うようにした。イヤモールドは、一緒にティッシュペーパーでこよりを作ってやり方を示すと、自分で掃除をすることができた。電池交換については、自宅のカレンダーに交換した電池シールを貼っていたため、持ち運べるカレンダーにシールを貼るようにした。通級時にカレンダーを持参してもらい、交換の周期を確認し次回の交換がいつであるかを一緒に考えた。すると、自分から母親に電池の交換時期を伝えるようになってきた。

★テーマを決め、それに連想する言葉をたくさんつなぐ課題である「ことばのネットワーク」を繰り返すことで語彙が増えてきている。しかし、言葉を聞き間違っていたり、曖昧に覚えていたりすることがあるため、『ことば絵じてん』の作成を始めた。初めは、教員が用意したイラストで作成し、徐々に家庭でも増やしている。『ことば絵じてん』をきっかけに、曖昧であった言葉や新しい言葉を覚えられている。

聴覚支援学校	聴く力を高めるための指導
<p>★対象児童（小学3・5・6）年 対象障害種（感音性難聴）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> 補聴器を装着していれば、会話のほとんどの内容を聞き取ることができる。 肉声に比べると、CDの音源は聞き間違えることが多い。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 最後まで集中して聴くことができる。【自立活動4環境の把握一（4）】 分からない時には自ら訴えることができる。【自立活動6コミュニケーション（5）】 <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等</p> <ul style="list-style-type: none"> 「きくきくドリル BOOK①②③」（村上裕成、文英堂） お助けカード「もう1回言ってください」「ゆっくり言ってください」等 	
<p>学習内容や指導方法、児童生徒の様子等</p>	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <ul style="list-style-type: none"> きくきくドリル BOOK① 「どっちへすすむ」：聴きながら手を動かす練習になる。最初は「いぬ」「はと」「はち」等名詞の聴き分けだが、後半は「動物」「鳥」「虫」「魚」等の上位概念を聴いて瞬時に判断する力も養われる。 きくきくドリル BOOK② 「メモをとろう」：自分にとって必要な情報を見極める練習になる。必要な情報を素早く簡潔にメモする必要がある。話の要点をつかむ力を養う。 「大事なことは3つ」：問題を最後まで集中して聴き、記憶しておく練習になる。「左右どちらから」「何番目 or 何個を」「何色に」塗るかを正確に聴き分けて覚える課題。集合数と順序数を理解しておく必要がある。 「君がFAXになろう」：平仮名の単音と数字を聴き分けて覚え、枠を塗りつぶしていく課題。全て正解すると文字が完成するので、クイズ感覚で取り組めて達成感もある。 「ことばをすぐに書こう」：聴こえた通りに単語を書き続ける練習になる。集中力と処理能力が養われる。また、聞き漏らした際は「ちょっと待ってください」「もう1回言ってください」と自ら訴えることができるようにすることも課題となる。 「暗号を読みとろう」：無意味な単音の羅列を聴き覚え、横に1行毎に書いていき、全文が完成し縦に読むと意味のある文章になっているという課題。意味のないことばを覚える練習は集中力を高めるのに効果がある。 きくきくドリル BOOK③ 「お話をおぼえよう」：話を最後まで集中して聴く練習になる。話の内容を理解して、要約する力を養う。「メモをとろう」で培った力を更に発展させる課題でもある。 「やさしい算数」：文章題を耳で聴いて問題を理解し、覚えて、その後式を立てたり計算をしたりする練習になる。問題の内容をイメージすることや、読解力が養われる。算数の難易度は比較的易しいが、集中力と理解力が求められる課題。 <p>[児童の様子、成果]</p> <p>★聴く力は聴力レベルだけの問題ではなく、集中力や理解力、処理能力など様々な力で成り立っている。普段はどれだけ聞き取れているか具体的に把握しにくいですが、この課題では評価がしやすい。また、様々な課題があるので楽しみながら取り組むことができている。きくきくドリルの課題を通して、聴く力が着実に高まっていると感じる。</p>	



聴覚支援学校	セルフアドボカシーの力を高めるための指導
<p>★対象生徒（中学1）年 対象障害種（感音性難聴）</p> <p>★対象生徒の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・補聴器を大切なものとして認識し、自己肯定感も高い。 ・必要な支援を依頼することができる反面、聴覚障害に関する基礎知識についてはまだ十分身に付いているとは言い難い。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分から合理的配慮を求めたり、自分の聞こえへの認識を深めたりして、セルフアドボカシーの力を高めることができる。 <p>【自立活動 2 心理的な安定—(3)】</p> <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聴覚障害児のためのセルフアドボカシー」 （監修 中川尚志 編著 國末和也・藤吉昭江 ジアース教育新社） 	
学習内容や指導方法、児童生徒の様子等	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 自分の日常生活にかかわる福祉制度を身近に感じられるよう、県や市の福祉制度、補聴器の値段などをインターネットで調べる。また、身近にいる聴覚障害者の大人がどのように福祉制度を利用しているかを知る機会を設定する。 ② お世話になっている病院や医師、補聴器販売店や補聴器認定技師など自分とかわりのある施設や人物を知る。 ③ 自分の聞こえや補聴器の管理方法を説明する。 <p>[生徒の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 補聴器やデジタル補聴システム、電池の値段をインターネットで知り、高額であることにとっても驚いていた。補聴器の電池の取り換えは自分で適切にできているが、購入は母親任せだったので、自分で買いに行ってみるとの前向きな言葉が聞かれた。 ★ 病院や医師、補聴器販売店や補聴器認定技師の名前をすぐには答えられなかったが、宿題としてきちんと調べてメモにまとめることができた。 ★ 水泳授業の際には補聴器をケースに入れて教員に預けていることを説明できた。また、ペンケースに電池を常備し、補聴器のアラーム音に気付いたら自分で電池を取り換えることができている。後ろからの呼びかけに気付かないことがあるので、その時は肩を叩いて、と友達に伝えていることも話してくれた。職場体験などで初めて会う人に、自分の聞こえ方についてどのように説明し、合理的配慮を求めるかのシミュレーション学習も予定している。 	

視覚支援学校	視覚補助具を活用するための指導
<p>★対象児童（小学4）年 対象障害種（視覚障害）</p> <p>★対象児童の特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かい図を読み取ったり板書を写したりなど、見えにくさによる難しさがある活動は消極的になるが、パソコン操作など興味のある活動は意欲的に取り組むことができる。 ・視覚補助具の必要性を感じ、自ら視覚補助具を使うようになりつつある。 ・リズム打ちや工作、漢字が好きで、そのことについて楽しそうに話をする。 <p>★目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示された文字や図、文章に素早く近用ルーペを持っていき、正確に読み取ったり書き取ったりすることができる。【2心理的安定－(3)、4環境の把握－(3)】 ・文字や図など複数の要素を組み合わせた図や資料の中から、指示された部分を読み取ったり、全体像を捉えたりすることができる。【2心理－(2)、4環境－(1)(4)(5)】 ・見えづらい状況や場面での対処法を知ったり、必要に応じて自分から視覚補助具や道具を工夫して活用したりすることができる。【2心理－(2)、3人間－(3)、4環境(2)(3)(4)】 <p>★参考資料、有効だった教具・教材（お役立ちグッズ）等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チェインジングボード ・近用ルーペ、単眼鏡 ・「くもんの日本地図パズル」（KUMON） 	
<p>学習内容や指導方法、児童生徒の様子等</p>	
<p>[学習内容と指導方法]</p> <p>①視覚補助具の使い方</p> <p>○近用ルーペやチェインジングボード、単眼鏡を使う場面を多く設定し、使い方に慣れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・プリント教材は、文字の大きさやフォント、図形の線の太さなどに配慮して、視覚補助具があれば見やすいものを用意する。 ・必要に応じて、視覚補助具を自分から使うことができるよう、児童が手に取りやすい位置に置いておく。 <p>②プリント学習</p> <p>○正しい漢字を見つけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・A4用紙に書かれた、15個程度の漢字の中から指定された漢字を見つけ、○を付ける教材。別の似た漢字であったり一画抜けていたりなど、違う文字についても近用ルーペを使用して、どこが違うのかを解答する。 <p>○分度器を使って、□度の角を書こう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分度器と近用ルーペ、鉛筆を同時に操作し、分度器の目盛りを読み取って□度のところに印を付ける。 <p>[児童の様子、成果]</p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 視覚補助具があると見やすいということを理解し、テストのときに、自分で近用ルーペを使う姿が見られた。 ★ 単眼鏡や近用ルーペを使用して、「見える」状況が分かってきたことで、「〇〇が見えにくい」「〇〇の方が見やすい」など、自分の見え方を言葉で伝えられるようになった。 	



